

令和8年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立朝明高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		「社会に貢献できる人間へー自分づくりの三年間ー」をテーマとして、「時を守り、場を清め、礼を正す」の教育指針のもと、生徒が成長する学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	・「社会人基礎力」を身につけ、礼儀を重んじ、社会規範を遵守し、挨拶や適切な言葉遣いができている。 ・目標を持って学校生活を送ることができ、進路実現を果たしている。 ・学習習慣が定着し、基礎的・基本的な知識・技能とその活用能力を身につけている。 ・他者とコミュニケーションを図り、協働する力が具わっている。 ・自己肯定感や自尊感情を持ち、人権尊重の意識や態度を身につけ、自分と他者の命と人権を大切に「豊かな心」を具えている。 ・地域福祉に貢献できる知識・技能と行動力を身につけている。(ふくし科)
	ありたい教職員の姿	・生徒の基礎学力の定着及び学習意欲の向上を図るため、ICTを活用して主体的・対話的で深い学びを目指した「授業改善」に取り組んでいる。 ・各教科や分掌において、「社会人基礎力」を育むため、「考える力」や「判断する力」、「表現する力」の涵養のために具体的な教育的働きかけを行っている。 ・教育相談及び特別支援教育等の知識とスキルをもとに、互いに協働して個に応じた指導と支援を行うことができる。 ・本校の教育活動や特色を理解し、その価値に誇りと愛着をもって職務にあたるとともに、その取組や成果を校内外に積極的に発信し、地域や保護者との連携を推進することができる。

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒> 自己肯定感や自尊感情が育まれ、自らの成長を実感して、進路希望が実現する。 <保護者> 安全・安心して学べる学校であり、心身ともに健全な子どもの育成が図られている。 <地域社会> 卒業までの粘り強い支援と、卒業後、社会を生き抜く力とともに、人権感覚を備えた人材の育成が図られている。 <進路先> 社会人基礎力をはじめとする人間力の向上に係る教育が行われている。	
	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<小中学校> ・小中高の接続を意識し、キャリア教育及び人権教育について相互に連携を図りながら、子どもの資質・能力の育成に取り組むこと。 <保護者> ・学ぶ力・心の力・体の力の育成と希望する進路の実現。 <地域社会> ・地域経済や自治活動の中心となる人材の育成。 <卒業生> ・母校に誇りを持ち、同窓生としての情報交換の場。	<小中学校> ・継続的・体系的なキャリア教育に係る連携。 <保護者> ・社会の一構成員としての自覚確立のための連携。 <地域社会> ・生徒支援及び社会人マナー向上の支援。 <卒業生> ・在校生の進路実現、学校の教育環境の整備に対する情報提供や人的・経済的な支援。

(3)前年度の学校関係者評価など		① 学校の魅力発信に関する課題 ・本校の教育活動や特色について、校内では共有されているものの、校外への発信が十分とは言えず、その魅力が十分に伝わっていない状況がある。 ・特に、ふくし科の特色ある取組や成果、進路実現の実績、人権教育の充実、多様性を尊重した教育課程の内容について、より積極的かつ効果的な情報発信が求められている。 ・また、部活動の充実や芝生グラウンド、トレーニング室等の教育環境の良さについても、学校の強みとして発信を強化していく必要がある。 ② 保護者アンケートの活用に関する課題 ・保護者アンケートにより貴重な意見を得ているものの、その結果に対する学校としての受け止めや改善の方向性が十分に示されていない状況がある。 ・いただいた意見を学校運営の改善にどのように生かしていくのか、その方針や取組の見通しを明確に示し、保護者との信頼関係の一層の構築につなげていくことが求められる。
(4)現状と課題	教育活動	・基本的生活習慣や挨拶の定着を基盤に、安全で安心して学べる環境を整え、自己肯定感や自尊感情を育み、目標を持って主体的に行動できる生徒の育成が課題である。 ・基礎学力の定着に課題があることを踏まえ、授業改善を最重点課題として位置づけ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業力の向上や ICT の効果的な活用、観点別評価の充実を通して、確かな学力の育成を図る必要がある。 ・ふくし科の特色ある教育活動については、その価値や成果を一層高めるとともに、内容の精選や工夫を図りながら、持続可能で質の高い取組として推進していく必要がある。 ・いじめ対策アドバイザー等の外部人材を積極的に活用し、いじめの未然防止及び早期発見・早期解決を図るとともに、生徒の安心感や自己肯定感の向上につなげる取組を推進する必要がある。
	学校運営等	・個に応じた指導・支援体制は整っており、教職員の対話を基盤とした組織的な取組が行われているが、情報共有や経験の継承のさらなる充実が課題である。 ・本校の教育活動や特色について、校外への発信が十分とは言えず、ふくし科の取組や進路実績、人権教育、多様性を尊重した教育課程、部活動や教育環境等の魅力を効果的に伝えていくことが課題である。 ・保護者アンケート等により意見を把握しているものの、その結果に対する学校としての受け止めや改善の方向性の提示が十分ではなく、取組の見える化とともに、改善の筋道を明確に示していくことが課題である。 ・教員数の減少に対応した業務の見直しや校務の ICT 化を進めるとともに、働き方改革は喫緊の課題であり、時間外勤務が月 45 時間以上及び 80 時間以上となる教職員が依然として多い状況にあることから、業務の精選・平準化を図り、持続可能な運営体制を構築していく必要がある。 ・コンプライアンス意識の向上と不祥事の根絶に向け、職員研修の充実や組織的なチェック体制の強化に取り組んできたが、引き続き重要な課題としてその徹底を図る必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・社会に貢献できる人間の育成に向け、基礎的な知識・技能の定着と、思考力・判断力・表現力及び主体的に行動する力の育成を図る。 ・地元企業等と連携し、勤労観や職業観の育成を図るとともに、2 学年でのインターンシップ等の体験的な学習を通して進路意識の向上を図る。 ・全ての教育活動を通して、生徒一人ひとりの自己肯定感や自尊感情の向上を図る。 ・地域の事業所等と連携した介護実習の充実を図り、福祉や介護に関する専門的な知識・技能の定着と実践力の育成を図る。(ふくし科) ・介護福祉コース選択者の資格取得を推進し、専門性の高い人材の育成を図る。(ふくし科)
----------------------------------	---

学校運営等	・教員一人ひとりが自己の教育力の向上を目指し、授業研究・公開授業・指導法の改善を通して授業改善を推進するとともに、学校組織としての教育力の向上を図る。 ・規範意識の醸成や基本的生活習慣の確立を基盤とした生徒指導・支援を徹底し、地域や保護者から信頼される学校づくりを推進する。 ・保護者や地域との連携を深めるとともに、本校の教育活動や特色について積極的に情報発信を行い、学校の魅力向上と信頼の醸成を図る。 ・教職員がやりがいや満足感を持って働くことができるよう、業務の見直しや効率化を進め、働き方改革の取組を推進する。 ・コンプライアンス意識の向上と不祥事の根絶に向け、研修の充実や組織的な体制整備を図り、信頼される学校運営を推進する。
-------	---

4 求める生徒像

入学時に期待される 生徒の姿 【アドミッション・ ポリシー】	・3年間を通して、部活動や資格取得、進路について自ら目標を見だし、主体的に取り組むことで自己の成長を目指す生徒 ・基礎学力の定着に努めるとともに、社会で通用する知識・教養や礼儀、コミュニケーション力を身につけようとする生徒 ・福祉の知識と実践力を身につけ、福祉施設や身近な人々の役に立とうとする意欲を持つ生徒（ふくし科）
---	--

5 本年度の行動計画と評価

（１）教育活動

教育活動に関する項目は、**児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。**

（例）「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実（教務）	(1)授業改善 ・生徒が「わかる・できる」を実感できる授業づくり ・ICTを活用した個別最適な学びの推進 ・教員間で授業改善の文化をつくる 【活動指標】 ・授業公開週間を教務主導で年2回実施 ・ICT活用授業を各教科週1回以上実施 【成果指標】 ・生徒アンケートの授業満足度（とても満足＋満足）80%以上 (2)基礎学力の定着 【活動指標】 ・基礎力診断テストの実施（一人一台端末による解答） ・結果に基づく補習・学習会の実施 【成果指標】 ・生徒アンケートの肯定回答率の向上 ・補習参加者のテスト結果が向上 (3)評価の共有 【活動指標】 ・評価基準の研修会を年1回実施 ・成績処理のミスゼロを目指したチェック体制の構築	(年度末および適宜記載)	◎

総務委員の活動 (総務)	【成果指標】 ・評価に関する生徒アンケートの肯定回答率の向上 ・成績処理ミスのゼロ継続 ・教員間での評価基準の差異が縮小 (1)総務委員の活躍の場を提供 【活動指標】 ・表彰式 年3回以上で活動 ・高校生活入門講座 1回 【成果指標】 ・生徒アンケートで活躍できたと回答する割合 60%		
人権学習 (人権担当)	【活動指標】 ・各学期に1回人権LHRを実施する。 ・年に1回、全校での人権講演会を開催する。		
生徒指導全般 (生徒指導)	・自転車交通マナーを理解と定着を図る(4月・9月) ・頭髪、服装のルール、ベル席や授業中のマナーの定着を図る。軽度な違反は記録し、一定回数に達した場合はふりかえりの機会を設けて改善につなげる。 ・平日アルバイトについては、成績や出席状況等を踏まえた許可制とし、学習との両立を図るとともに、適切な実施につなげる。 ・いじめ防止月間を中心に、「いじめ防止メッセージボードの作成」、「ピンクシャツ運動」などで、いじめ対策、啓発、防止に努める。(4月・11月)		
キャリア教育 (進路指導)	(1)「自分づくり」の3年間を通して、自らの生き方を考え、進路実現が実現する。 【活動指標】 ・進路LHR30回以上 ・進路だより発行10回以上 【成果指標】 ・生徒アンケートの「進路情報を十分に提供している」と回答する生徒の割合 70% (2)地元企業等と連携し、勤労観や職業観の育成を図る。 【活動指標】 ・連携協力企業100社以上 【成果指標】 ・生徒アンケートの「目標を持って学校生活を送っている」と回答する生徒の割合 70%		
心身の育成 (保健部)	(1)自らの体の健康のために適切な行動を取れる力を養う。 ・定期健康診断の結果(所見あり)の配布(早期治療を促すため。) ・検診結果一覧の配布(三者懇談会で配布し、生徒・保護者に現状を認識させる。) ・自身の健康状態の把握(体調不良時やけが等の場合に、自分の現状を周りに発信する力を育てる。) (2)自己肯定感を高められるよう、心の力を養う。		

	・スクールカウンセラーによる教育相談の実施（50 回予定） ・悩み・不安のある生徒への働きかけ 保健室によく来室する生徒や欠席の多い生徒に対して継続的に観察・声かけを行い、学年団と連携して対応していく。 (3)「支援を要する生徒」を把握し、支援を行う。 ・心理検査を実施し、生徒に自身の強み・弱みを把握させる。（1 年生） ・「支援を要する生徒」の情報共有の徹底 特別支援教育校内委員会の実施、保護者との連携を行う。		
福祉教育の充実 (ふくし科)	(1)福祉関係の資格・検定の取組促進（ふくし科） ・様々な福祉検定を取得するよう検定一覧表を掲示し、資格等取得のメリットを伝え、声掛けをおこなう。 【活動指標】 ・介護福祉士国家試験 合格者割合 80% (ふくし科3 年生介護福祉コース 11 名) ・介護職員初任者研修修了 合格者割合 100% (ふくし科2 年生 24 名) ・社会福祉・介護福祉検定1 級 合格者割合 50% (ふくし科3 年生介護福祉コース 11 名+受検希望者) ・社会福祉・介護福祉検定2 級 合格者割合 30% (受験希望者) ・社会福祉・介護福祉検定3 級 合格者割合 50% (ふくし科2 年介護福祉コース 4 名+受検希望者) ・社会福祉・介護福祉検定4 級 合格者割合 30% (受験希望者) 【成果指標】 ・介護福祉士国家試験 合格者 8 名以上 ・介護職員初任者研修修了 合格者 24 名 (ふくし科2 年生 24 名) ・社会福祉・介護福祉検定1 級 受検者の 50%以上 (3 年生介護福祉コース 11 名+受検希望者) ・社会福祉・介護福祉検定2 級 受検者の 30%以上 (受験希望者) ・社会福祉・介護福祉検定3 級 受検者の 50%以上 (2 年介護福祉コース 4 名+受検希望者) ・社会福祉・介護福祉検定4 級 受検者の 30%以上 (受験希望者)		
学校運営への支援（事務部）	・就学支援金並びに各種奨学給付金受給対象者への悉皆受給、各種奨学金事務の完遂		
改善課題			
(年度末に記載)			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、**教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。**

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営 (管理職)	(1)学年・分掌業務の連携、情報共有、外部資源の活用 ・業務の精選、主任会の実施 ・いじめ対策重点校の取組の実践、職員研修や生徒講演を実施し、いじめ対策、啓発、防止に努める ・SCやSSWとの連携、課題の共有	(年度末および適宜記載)	
資質向上の取組 (管理職)	・授業力向上を図る取組の推進 ・職員のコンプライアンス及び人権意識の向上を図る取組の推進 ・多様な生徒への理解を深め、個に応じた支援の充実を図る 【活動指標】 ・教科に関する研修 一人年1回以上参加(校内外) ・信頼向上委員会による校内研修 年1回以上実施 ・外部視察等の成果の共有 実施 ・管理職による授業見学 年2回以上実施 ・特別支援に関する研修への参加と校内での共有及び活用		
外部への発信 (総務)	(1)ホームページによる情報提供 ・ホームページのリニューアルと更新 【活動指標】 ・ホームページを通じた情報発信 50回以上 【成果指標】 ・保護者アンケートの学校の様子がわかると回答する保護者の割合 60% (2)中学生やその保護者に向けての広報活動 【活動指標】 ・授業公開(5月)や高校生活入門講座(10月)の実施 ・ふくし科体験講座、アスリートコース体験会の実施		
ふくし科魅力発信・地域連携 (ふくし科)	(1)異校種や地域との交流を実施し、ふくし科や福祉について魅力発信をおこなう。 ・保々子ども園、保々小学校、特別支援学校北勢きらら学園との交流を実施する。 ・ふくし科のHPとInstagramで魅力を発信する。 ・卒業生や施設職員の協力を仰ぎ、施設で働く楽しさ、魅力を在校生に伝えてもらい、それを校内等で情報提供をする。		◎
学習環境の整備 (事務部)	・目指す学校の姿に加え、学校評価委員会のご提言を踏まえ、「人権教育の充実」、「ふくし科の一層の魅力		

働き方改革と健康確保措置 (管理職)	発信」、「アスリートの高次元での活躍」を一層、支援できる効果的予算の配分と実行を教科、科、分掌と協働して執行し充実を図ります。 ・ふくし科や家庭科、理科（産振、理振）の設備、備品の更新、アスリート活躍の施設、天然芝グラウンドの維持等の県費化の継続（予算特別内示を含む）を実践します。 ・指定避難所の体育館空調工事を罹災時や、熱中症対策等に効果的に活用できる早期着工を実践します。 (1) 総勤務時間の縮減に向けた取組 【活動指標】 ・定時退校日に退校できた教職員の割合 80% ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% ・放課後に開催した 60 分以内で終了した会議の割合 90%以上 【成果指標】 ・時間外在校等時間が年 360 時間を超える教職員数 0 人 ・時間外在校等時間が月 45 時間を超える教職員の延べ人数 0 人 ・一人当たりの年間休暇取得日数 10 日以上 (2) ライフ・ワーク・バランスや働きがいに関する取組 ・多様で柔軟な働き方の推進（育児・介護のための各種制度の利用促進） ・困難な事案に対し、組織で対応していく ・ハラスメントのない風通しの良い職場風土の醸成 ・保護者や地域住民への理解と協力促進 【活動指標】 ・職員との面談 年間3回以上実施 【成果指標】 ・ストレスチェックにおける「職場の支援」指数 80 以下 ・ストレスチェックにおける「総合健康リスク」指数 80 以下		※
改善課題			
(年度末に記載)			

6 学校関係者評価

明らかにになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
----------------------	----------

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)